

日本ユニシス株式会社

中期経営計画(2012-2014)説明会 (2011年12月20日開催)

主な質疑応答

(ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。)

Q: 2014年度の売上高2800億円、営業利益140億円という目標値は、3年前の業績に届かない数字という印象だが、この数字の見方を確認したい。

A: これは必達目標として掲げたもので、共創ビジネスや社会基盤ビジネスなどの新事業は含んでいない。これら新事業の成長でさらなる上乗せを目指したい。

Q: 2014年度までに2010年度比で15%のコスト削減を行うとのことだが、どのように減らすのか。

A: 15%のコスト(総経費)削減は2010年度実績比であり、2011年度で目標値の半分程度のコスト削減を見込んでいる。2012年度から2014年度にかけて残りの半分のコスト削減を図る計画であり、人員減による人件費削減のほかさらなる経費削減に取り組み、高コスト体質を改善していく。

Q: 人員を9,300人から8,000人体制へするとのことだが、具体的にどのような手法で行うのか。

A: 新卒採用を一定水準で継続する一方で、団塊世代の定年退職などの自然減により、2014年度末には8,200人程度まで減少する見込みである。そのほか、各種施策により8,000人体制に持っていく。

Q: メインフレーム関連売上の今後の推移を教えてください。

A: メインフレームは引き続き減少していく見通しであり、2014年度までに売上高で数十億円の減少リスクを計画に織り込んでいる。特に、2013年度での大きな減少を見込んでいる。

Q: 新事業の立ち上げに向けて、今後はどのような分野にどの程度の投資を行うのか。

A: 投資については、総額は現状を維持する方針であるが、今後は社会基盤・共創ビジネスや導入型ソリューションへの投資割合を増やしていく。ただし、これまで実績を積み重ねてきた知見のある分野への投資が中心であり、投資回収リスクが心配される大型投資は想定していない。

Q: 今後の海外ビジネス展開について教えてください。

A: 当面は日本国内のお客様の海外進出支援を通じて、海外ビジネスのノウハウ蓄積を図る。グループ本社や子会社の現地法人、USOL ベトナムなどの既存拠点を活用し、お客様の海外ビジネス展開を支援していく。

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。